成人映画

＊新春放談
一線監督の噛みつき座談会
これでいいのか！ピンク映画——

'67
NO,14

謹賀新年

あけましておめでとうございます
ことしもどうぞよろしく

昭和四十二年　元旦

日本シネマフイルム株式会社

社長　鷲尾飛天丸

東京都中央区八重洲六ノ一
TEL（二八一）七四七八

若松プロダクション

代表　若松孝二

東京都渋谷区上通り二—十—六
葵デジレンス　三階
TEL（四〇九）三九四七

六邦映画

東京都中央区日本橋通三—八
TEL（二七一）一九二五
関西支社・大阪市北区堂島船大工町
堂栄ビル

葵映画株式会社

社長　西原儀一

東京都港区芝新橋四—六—六
TEL（四三四）〇七七三

向井プロダクション

代表　向井寛

湯浅プロダクション

代表　湯浅浪男

大蔵映画株式会社

社長　大蔵貢

東京都中央区銀座西五ノ一
一番館ビル
TEL（五七一）八七五六

関東ムービー配給社

社長　桑原正衛

東京都中央区銀座東三—七
新岩間ビル
TEL（五四二）八〇一六—八

青年群像

代表　大井由次

武田プロダクション

代表　武田有生

国映株式会社

社長　矢元照雄

東京都中央区銀座東六ノ四
材木ビル五階
TEL（五四三）〇九〇一—五

明光セレクト

東京都新宿区荒木町七鈴新ビル
TEL（三五三）二〇一一
二六八八

ヤマベプロダクション

代表　山辺信雄

東京都目黒区三田七七
長者丸マンション二〇一号

新日本映画

一戸英生

フレッシュな魅力・曙梨加

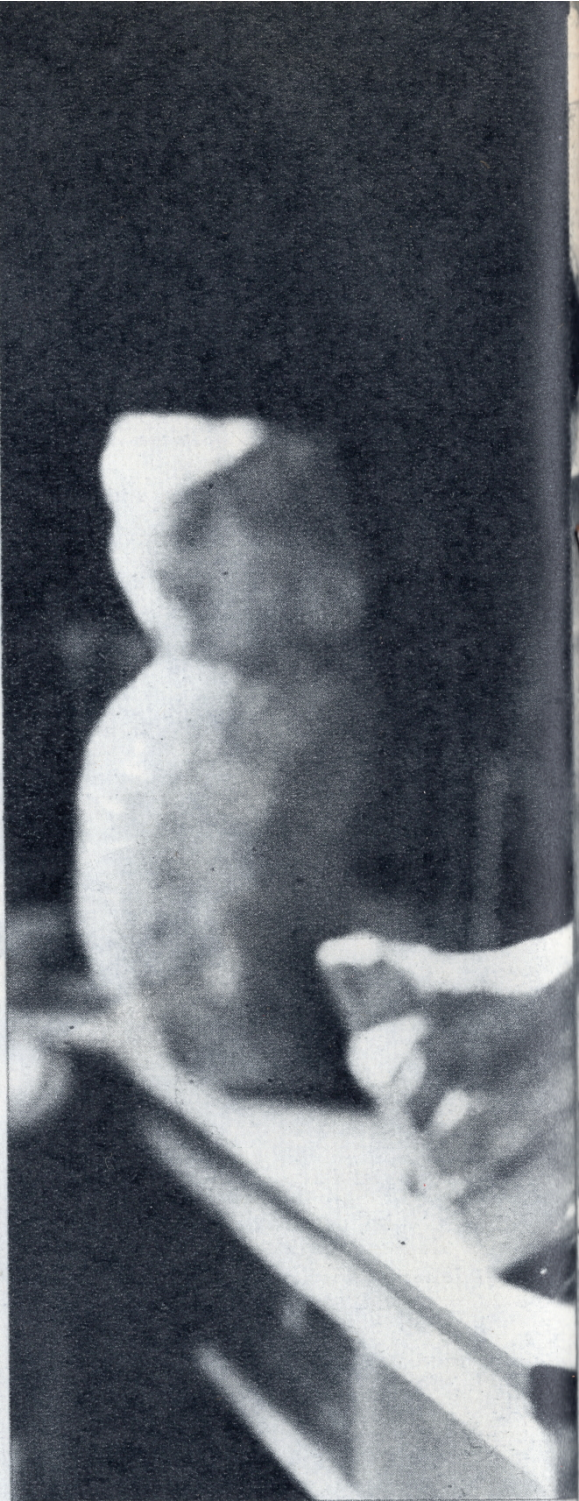
■「禁じられた性」(国映配給)浅間ロケより

清純な瞳が魅力の曙梨加

混血児という宿命を背って生れた黒人少年と、家庭内の母子の不和から家出をし自殺をしようとする娘との友情、そして次第に恋に目ざめてゆく過程を描く―というのがこの作品のテーマ。監督はプロデューサーの大井由次がはじめてメガホンをとっているが、第一作としては既成の独立プロ作品にみられない新鮮さが画面一ぱいに輝く。それは浅間山の

初冬の浅間高原で全裸でハッスル

出来上ったもので勝負……と初演出の大井監督

豊かなバストもグット魅力的

火口や、高原の自然をバックにした、美しさが大きくモノをいって、この作品を一段と張りのある異色作に仕立てあげたといえる。

映画のロケ地選定がいかに大切かを如実に示しているといえるし、適確なマトを射た演出手腕であったことも一つの収穫である。

「千曲川絶唱」（東京映画）で

初めて全裸を見せた星由里子

NO,14

昭和42年1月1日発行

目 次

表紙—城山路子

発行 / 現代工房

純情可れんな役ばかりやってきた星由里子が、「千曲川絶唱」(東京映画、監督豊田四郎)で全裸演技をやった。なぜハダカにならねばならなかったか—というと、白血病の恋人北大路欣也が、余命いくばくもない。もうあの世行き寸前になって、看護婦の星に「キミの総てをこの目に焼きつけて死にたい」と絶唱ならぬ絶叫する。「そんならみんなみせてあげる。よく見てチョウダイ…」

と彼女は白衣もブラジャーもパンティもかなぐり捨て、全裸になり、北大路クンに裸をみせる。感動の一瞬、クライマックスシーンとなるわけだ。

彼はそのハダカをみて満足し、ニコリと笑って死んでゆく。

★

東宝の看板女優星が、「清く正しく美しい映画」をスローガンとする東宝の中にあってハダカなんかにという批判は当然あった。ある重役は「どこまでハダカにするのか」と心配したそうだが、そんな心配をよそに勇ましいのは星自身。「この一作に賭けているんだから全裸でもやりますわ」と重役とはウラハラ。

とにかく豊田センセイは当日、最少のスタッフ制限でこのヌードシーンを撮影したのだがベッドで寝ながら、星クンの総てを観察した北大路はことし最大のチャンスを得たということになる。もちろんパンティなしのぶっつけ本番、これがピンク映画界だったら「なんだあたり前のことじゃないの」というところだが、天下の星と東宝ともなれば、かくも商品価値をモッタイつけるわけだ。背中より上しか公表しないスチールだが、本篇をみて…というところもいかにも出し惜しんだ感じなんだな。ケチ。

監督の嚙みつき座談会

のか！ピンク映画

向井　寛　監督

渡辺　護　監督

女優　可能かず子

本誌　川島のぶ子

同じ女と寝るとあきるように映画も変化を求めている！

本誌　きょうは成人映画の独立プロの中で、もっとも活躍されている若松監督、それに可能さんも加わっていただいて、歯に衣をきせない放談をしてほしいと思います。問題山積のなかから一つずつ提起していってほしいのです。

向井　いまお客は映画をみる目が肥えている。もっと高度なものを求めているんだ。だが高度なものばかりじゃダメだということを配給会社自身もよくわかってるんですよ。安く作品が作られておもしろくて収益のあがるものを要求してるんですよ。

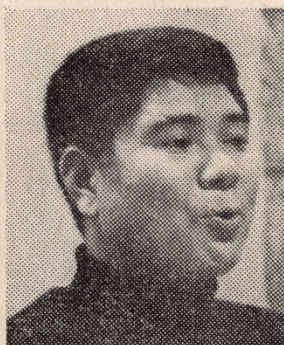
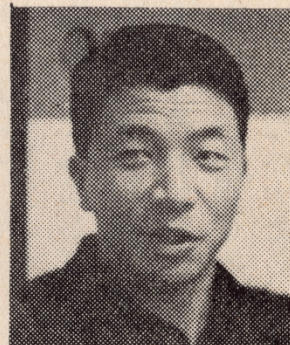
若松　いまのファンはなにを求めているか、毎日同じ女と寝てるとたまには違う女とねたくなるのと同じでさ、映画だって高度なものを求めたくなるわけだよ。この現状の中でどうしたらいいか、もっと考えてゆくべきなんだよ。

向井　その点じゃ若ちゃんがこの前、新宿の京王名画座でやったロードショーね。あんな運動は実にいいことだと思うね。

若松　こんどは紀伊国屋ホールでやるからね。

本誌　これからの独立プロの一つの運動は自分でフィルム担いで、売ることも積極的にやるべきですね。独立プロの新藤兼人や勅使河原宏監督にしてもすぐ五社と安易に妥協しちゃうような現状でしょ。

若松　ボクはね、人生オギャーと生まれた世界は地獄なんだと信じてるね。だから地獄人は地獄人らしく生きることだよ。それをみんなあまりわ

新春放談　第一線

これでいい

ピンク映画がさまざまの状況の中で、作品を発表しつづけながら、質的にいいものを作ろうとする映画作家の願いと、ウラハラな現象が強くそして多くなっている。製作費が一段とダウンし、女優もつぎつぎ姿を消している。そして興行的にも下降線のきざしだという。

果たしてこれでいいのか、映画を愛し、映画で生きる第一線の新鋭監督四人に集まっていただき、さらに女優も加わって、新春のザックバランな放談をしてもらった。悪い状況に噛みついて是正しよう。そして67年は上昇の年であることを期待したい。

出席者　順不同・敬省略

若松孝二監督

新藤孝衛監督

かってくれないもんだから酒くらって暴れてんだけどさ。

向井　若ちゃんは破壊派だね。破壊してそこに真実を求めるって奴だね。ボクはよく判かるけど、オレの考えとは反対なんだよ。

裸になることは演技じゃない　女優はもっと台本を研究しろ！

本誌　若松さんの作品を通じて「胎児が密猟するとき」が最高だったし、向井さんのは「禁じられたテクニック」ね「テクニック」なんか下手な日活というより五社の作品以上の出来ばえだった。

若松　だからわれわれに一千万円ぐらいかけさせて撮らしたらチョツと凄げえの出来るんじゃないかな。

新藤　製作費はやはり多いに越したことない。家族かかえての生活費というものがあるし、スタッフかかえてやるとそれなりの生活の保証が必要でしょ。それから割り出したら、いまのピンク映画の製作費じゃ、その最低保証のギャラを割っている現状ですよ。

若松　それでもボクらはやっぱりもっと自分を出すことじゃないかなあ。ボクらはゴミだめから出てきたんだよ。野坂昭如がいっていた（註・日本読書新聞）がおめえのはウジ虫だといっているけどその通りだと思うよ。映画のゴミだめからキノコがニョキニョキと出てきたみたいなものよ。それだけに強いよな。五社のホンワかムードの連中をやっつけるには〝ゴミダメ派〟の連中しかいないんじゃないのか。だからボクらは一人一人反省して映画はなにか

をみつめて撮ってゆかねばいかんと思うね。きょうも足立(正生監督)の撮った作品を日本シネマにみせたんだけどね、この心情がわかんねえのかーというわけよ。涙が出てくるようなナカミのもんよ。それをテメエらで楽しんでとっているっていうんだけど、そうじゃないんだな。

本誌　一番の問題は配給機構の問題じゃないの? 配給会社が考えていることは弱いですね。

可能　一時間二十分の作品の中で半分がベッド・シーンを撮っていて、ふと撮影中、虚脱状態になることあるわ。

若松　きょうは俳優さん一人しかいないけどね、もっとホン(シナリオ)を読んで研究しろ! といいたいよ。もしそれがいやだったら断わればいいのだ。パンだけ食べてたっていいじゃないか。なんでもかんでもパッパッパと脱いでさ、それであとで気に食わないからってブウブーいうんなら最初からやるなってことだ。

監督は映画作家の主体性と良心を持つ必要がある!

本誌　やはり自分の主体性をもって、映画作家だったら最低の良心だけは維持してほしいですね。

若松　映画は監督のものだ。ボクらの作った「裏切りの季節」だけど、あれはどういったって大和屋竺のものなんだからね。それにしてもクランク・イン初日の谷口朱里の芝居なんてみられなかったよ。オレはこの映画やめたッてどなって文句いったら、彼女なんといったと思う。「あたし葵映画でこういうふうに仕込まれた」っていうんだよ。結局、その夜、徹夜で大和屋と彼女がデスカッションしたけど、くやしがって、真剣になってよくやったんだよ。だから俳優はホン(シナリオ)の段階から参加して来ないといけないんだ。

渡辺　大和屋さんは「裏切りの季節」で裏切るということと復讐ということをあれだけ新しい形で映像化したことは大したもんだと思いますね。この前も彼に合って「あんた胃袋の中のものみんな出したから二本目いらないんじゃないか」といったけどね。裏切るということに人間自身が恐怖をいだいていること、新しいテーマだと思うね。ある女優さんから絶望したといわれたんだよ、五社と違った異色のみごたえのあるものを作ったときこそ、この世界は裏街道じゃないといわれてね。

若松　ボクもやはり大手を振って歩きたいよ。そういうものにしたいし、いまのままじゃいかんよ。だから悪い監督はブッつぶした方がいいんだ。

渡辺　やはり監督が悪いと思うね。

若松　たとえばだよ。可能クンと映画一緒にみてお茶のんで、近くのホテルに行ってさ〝あの映画はどういうことかー〟なんていいあう、娯楽の中にバチンと迫ってくるものがなければいけないと思うんだよ。

本誌　そういうことですね。見たあとで討論出来るもの、シリーズものや駅前ものばかりじゃなく、映画がなにを描いたかを考えさせるものであるべきだと思うんですよ。

若松　だからボクのプロの「裏切り…」なんて大学祭でひっぱりダコ、一日一回のフィルム貸出し料が三万円だから

ね。

可能　私ね、「恋するガリア」をみたけれど、よかったわぁ忘れられないの。

新藤　あそこで暑いってんで女のひとがセーター脱ぐでしょ。あんな程度のことでなんでパリで検閲問題でフイルムをズタズタに切られたかわからないな。しかし甘ったるい作品だけどとり方がおもしろいね。

ベッドシーンやハダカにも主張がなければだめ

若松　しかしね、もうこれ以上、くだらない雑誌や週刊誌に絶対協力しちゃいけないね。きょうもある出版社から新しい映画雑誌出すから物凄く強烈なスチール下さいといってきたんだよ。強烈ってなんだ！　といったらラブシーンばっかりの特集やりたいっていうんだ。ふざけんじゃない、バカヤロッよくヌケヌケデンワかけてきたな、なめんじゃないっていってやったけどね。

向井　文句あんなら向井プロに行けって…（笑い）

渡辺　向井ちゃんのベッド・シーンってうまいね。

向井　そうよ、オレはね、実際に研究してるから…（笑い）

本誌　向井さんってやっぱりエラいわ。女に惚れるもの。若ちゃんって女に惚れたことある？

若松　ない。（笑い）　しかしね、ベッド・シーンっていくら形をかえてみたって同じことだよ。きまってるよ。いかにムード的にとるってことよ。渡辺ちゃんの「女子大生の抵抗」はちょっとハラ立ったぜ。

「禁じられたテクニック」の可能かず子

向井　配給会社の要求にある程度妥協しなけあいけないし、その中でだね、どう描くかが監督の手腕だよ。

若松　ラブシーンはいくらあったっていい、映画で自分はなにをいいたいかということよ。ただベッド・シーンやハダかだけならやめろ、死ね！　といいたいよ。

新劇畑の役者をつかって一本いい作品を作ってみたい

本誌　そこでみなさんね、ひとりひとりことし何本撮って、なにが一番自信があり、気にいったわけ。

向井　ボクは十六本だね。気にいったのは「情炎」だ。あ

れはピンク映画も女性がみられる―という意味でもとったもんだけどね。

若松　ボクは六本。やはり「胎児が密猟するとき」だね。

本誌　やはり異色の力作といえますね。どうして公開しないんですか。

若松　あれをアメリカに出そうと思っているマボロシの映画ですよ。アメリカは女性コンプレックスの国だからあの映画みたら、男性たちが泣き出すんじゃないかと思ってんですよ。

本誌　渡辺さんは？

渡辺　七本ですね。自信あんのは「のたうち」ですね。

本誌　可能さんは？

可能　出演本数は数えられないわ。もっとかわった役をやりたいと思ってるんです。

向井　あんたは魔性的な女の役がいい、女を売りものにした可愛らしい女ってのもいいよ。

若松　ボクは淡々と芝居している可能クンってのはいいね「壁の中の秘事」のときなんてのはよかったなあ。

だけど「悲器」の梅毒女なんてのはやるなよな。しかし大和屋がね、ボルネオのジャングルで六カ月間、思い出すのは「壁の中の……」の可能かず子だといい、「映画評論」に日本の最高の女優だなんて書いたんだな。

本誌　新藤さんはことし何本撮ったわけ。

新藤　ぼくは二本だけ。

渡辺　ボクは新藤さんの初期の「雪の涯て」を買ってるんですよ、あれ三回見ました。

新藤　ああいうテーマ、ああいう語り口しかボクには方法がないですね。

渡辺　もう一度ボクは新藤さんにあの「雪の涯て」に戻ってほしいと思うんだけどな。

若松　これからは五社にコンプレックスを感じている女優を使わず、新劇の女優とか、せめて戸浦六宏や佐藤慶あたりを使いたいね。そのためにはいいシナリオを書かなけあいかんな。

本誌　少しずつでもそうした俳優たちをよびよせて行く努力をしないといけないわけなのよ。

渡辺　ボクは結論としては、考えあらためていいものを一本一本作りたいということだよ。

若松　あんたいうことと撮ることと違うぞ。

渡辺　あんただって五十本撮っているうちで三十本は認めてないのがあるでしょう。

若松　おまえさん理屈や理論いってるけどダメだぞオ。バーなんかで熱弁ふるってるわりにあまりいいもの作らないじゃないか。

可能　なんだかんだいっても監督が一番いいわね。

「胎児が密猟するとき」の志摩みはる

若松　五社をぶっ飛ばすいい作品は四百万円の製作費があれば可能だよね。

新藤　そんなにいらない。二百五十万円あればいい、それすらないし使えないんだ。

向井　ひどいのになると百五十万円で作っちゃうってのがある。問題外だね。監督がそんなのに安易に妥協してまで作らねばならないなんて、情けないよ。

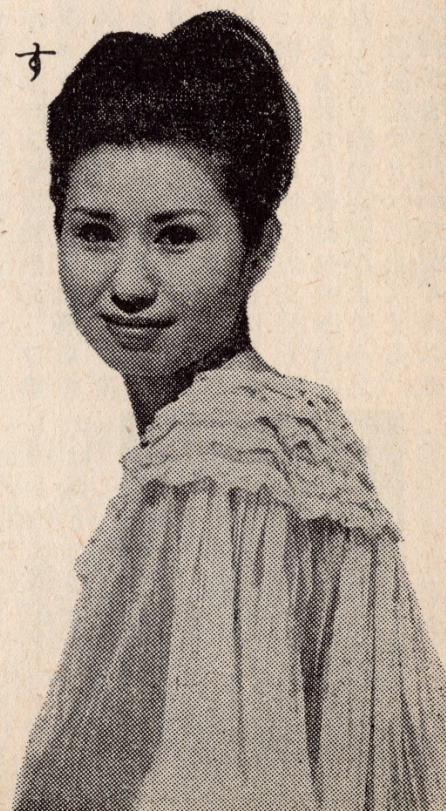
この独立プロは若ちゃんが元祖なんだから、後輩をよく育てなければダメよ。

新藤　ボクはいまの状況では仕事をしないでいた方がいいと思っているくらいだ。それほど、この世界に希望がもてないんだな。

向井　しかし、いまもっとも自由な状況にあるんだし、一本一本努力していいもの作るべきだと思うんだけど……。

可能　私たちははじめっからこれはダメだと思いながらやってんじゃないのよ。私がやったら少しはよくなるかも知れないーと思ってやるわけなのよ。

若松　スウェーデン映画をみてもテクニックは下手だね。しかしテーマのよさだよ、きたないような地獄そのものをテーマにしてるんだな。そこに意義があるってわけよ。ベルイマンだってそうなんだ。

本誌　結局、映画は一番監督がいい立場にいるわけですから、もっと作家的状況の中にあって、周囲のあらゆることに触発されながら、これからもいい作品を生み出して行ってほしいのです。ではこの辺で…どうもありがとうございました。

黒沢監督もマネのできない映画

≪女の反応≫が４日間でできた理由ー

「週刊新潮」（12・3号）が指摘したように小林悟監督の「女の反応」は〃こんな映画を作るからピンク映画は罪悪視されるのだ〃と同業者からも酷評されるにふさわしい本年、いやピンク映画史上はじまって以来の出来ばえであった。内容、いや出来ばえをここまでおとすにはかなりの労力と手腕が必要で、それも四日間で一時間半のドラマを完成させるという超スピードぶりは誰もマネの出来ないものだろう。小林監督のベテランたるユエンだ。少ない製作費と日数を「ホイキタ、サッサ」とインスタントに監督を引きうけたその作家的良心の不在と、安易な妥協精神、仕事がないよとほざいている監督はこの小林巨匠監督を大いに手本としてハッスルすべきだろう

こうした監督のいない限りピンク映画の発展向上はなく映画芸術も語れないのではあるまいか。なにごともピンとキリがあってこそ映画の評価が決められるのであって「女の反応」はそうした点ではピンク映画の良否を決める一つの犠牲的作品であって、そこに小林悟監督が果敢に身を挺したことはピンク映画不振の中にあって、まさに特攻隊精神といえるであろう。週刊新潮が「筋もへったくれもないピンク映画、女優さえ恥じてあきれるお粗末な〃精薄映画〃」ときめつけているが、この大衆娯楽エロ映画を超特急並みに撮ったことはたとえ黒沢明監督でさえもマネの出来ることではなく、本年最高のフィルム損失映画であった。

（井茶門三郎）

映画不況でモテた　桂　奈美

大阪で受けた巨大な乳房

オッパイの巨大さで知られる桂奈美が、大阪のヌード劇場OSミュージックホールに出演した。彼女を「あるヌード女優の遍歴」として週刊新潮（12・13号）がグラビア三ページで紹介している。

不況のピンク映画界では女優の内職が花盛り、桂奈美も本職のヌードと肩を並べて出演中、映画も一年半だが二十本に出演、整った顔立ちとボリュームはこの世界での中堅〃演技の勉強にプラスになればと自分の意志で決めました〃という彼女を紹介、彼女

何分の１秒を見逃すな

C・Cが初めてみせたオッパイ

イタリアのセクシー女優クラウディア・カルディナーレが、コロンビア映画の「**プロフェッショナル**」で見事なオッパイを露出して生ツバをゴクリとさせるシーンがある。カルディナーレはこれまで映画に出演してもオッパイをストレーイにみせたことはなかった。映画の中で紅一点ともいえる彼女が終始ブラジャーなしで、胸の谷間がよくみえる衣服をまとって出てくる。それがまたなかなかイカスセクシームード。バート・ランカスターとのラブシーンで胸を開いて乳房をみせるのだがそれもホンの一秒間の何分の一の瞬間だけ。このときはスーパーの字幕を読んでいたんでは見そこなうよ。

のオッパイをみせる舞台シーンや、楽屋風景、キタの地下街を散歩するスナップをのせている。さらに彼女を評して「ヘンな理屈をいわないで脱いでくれる」と映画宣伝部の弁をのせ彼女の豊満なバストが買われている…と説明がある。つまり劇場側が乳房だけを売りものにした点がありありとしているわけだ。〝映画でなく本物のハダカをみたい―〟というのはなにも桂奈美の場合ばかりではなく、ピンク映画の実演が大入りという事実がハッキリとそれを証明している。

× × ×

★城山路子の財産

城山路子の店バー「リズ」の壁にかかっている一枚の裸婦のデッサンは日本画壇の巨匠、林武の作品。時価百万円に近いといわれ「私のたった一つの財産」と彼女がいっているが、「あぶないから保険にかけるか、自宅に飾った方がいいぜ」というお客もいるが、「夜、この絵をみてるだけで心が落着くの…」と彼女。いい趣味ですぜ。

■若松孝二監督が目下、英語のレッスンに通っている。「アメリカでオレの作品をセールスするためだ」といさましいが、彼の東北弁は有名。「英語にズーズー弁はないからね」などと冷やかされている。

■向井寛監督がピンク映画のトップスターとかなりお熱い仲だともっぱらのウワサ。「ボクはマスコミにどう書かれても平気逆に利用するな」とその割り切りのいいこと。勇ましくていい

■ピンク映画の女優がこのところつぎつぎと消え去っている。「裸虫」や「胎児が密猟するとき」の**志摩みはる**、「続妾」「続情事の履歴書」の**北御門杏子**、「欲求不満」の**葵真由美**。プロにも配給会社にも女優を育てる意志がまったくなく、またそれほどの余裕のない現実が大きな理由。

新高恵子が梶山季之にプレゼントした4本の毛

「漫画読本」（十二月号）に梶山季之連載対談というのがある。「未成年お断り女優」で対談したのが新高恵子。

談論風発したのはいいが、最後の梶山後記がモンダイになっている。その記事を引用すると「彼女のところには、清純なファン・レターばかり来ないらしいが、時にはアソコの毛を欲しいなんていう、エッチな手紙もまぎれ込むとか。

私も彼女に、「バクチのまじないに一本下さい」と頼んだら、純情な彼女、「本当にバクチに効くんですか？」としばし別室に消え、チリ紙に包んで、赤い顔をして渡してくれた。家に帰って、開けてみたら四本入っていた。彼女との輝かしき対談記念が、かくてわが書斉に飾られるようになったわけだが、来春、税金で困る時期になったら、三本だけは競売する積りであるから、この後記を信じる方は入札価格を当編集部に申し入れられたし」

とある。これを読んだピンク女優のXさんは「ひどいじゃない。いくらなんでも云っていいこと、書いていいことがあるわ。それにしても新高さんは節度がなさ過ぎる」とプンプン。

しかし新高は〝あれはウソよ、梶山さんか編集部で勝手に書いたことよ〟といっている。

がピンク映画女優がかくも勝手に書きまわされていいものかと梶山批判の声が高い。

この女優は誰?

懸賞

＜セクシー女優クイズ＞

第八回クイズの問題は、ウットリ気持よさそうにお風呂に入っている女優です。「女三百六十五夜」で主題歌を歌い、歌える女優として期待されている。ピンク映画のエースで、最近作「肉色」「猟奇」「乳房の週末」と彼女の作品が上映されない日はない位の売れっ子。さておわかりでしょうか。

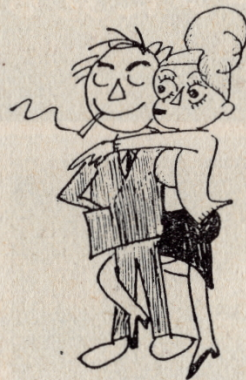
☆正解者10名に本誌特写によるグラマー女優のピンクムード写真を贈呈します。答えはハガキに住所、氏名、年令、職業を明記のうえ東京都中央区銀座西8－10高速道路ビル地下一〇一号室現代工房「成人映画」編集部あて。締切は1月31日まで。発表は賞品をもってかえます。当方の都合で発送が遅れる場合もありますがご了承下さい。

Y談風土記　わいだんふどき

●…**旧赤線の洲崎パラダイス**はいまや旅館やバーになっていて百二十軒。二、三十人の女給がネオン街をウロウロ。鉄砲というのはいきなり狙ってくる奴で、大年増か病気持ちだという。ラブレーターガールは〃愛するあなたへー〃などと書いてある白い封筒をネオン街にブラつく男に手渡すガールのこと。返事は近くの店できくことになっていて、自由恋愛がまとまれば近くの四畳半一間のアパートでほとんどが座ブトンをひっくりかえす。恋愛料は二千五百円ナリ。

☆

●…**京都は情緒**があっていいものだが、五条楽園に行けば「ダンナ、九時過ぎると女たちがどっと店の前に出てくるからいい女性と知り合えますよ」とタクシーの運転手。五条大橋近くでお茶屋が本拠。その一軒に入ると「あんさん芸妓はんにしまほか、ヤトナでよろしおすか」とくる。ヤトナとは〃やとい〃女の意味からきた芸妓と仲居の中間的な存在。このお茶屋街では店に女を置いていない。お客があると置屋から呼ぶ。泊まりは旅館へ出むくようだと花代が一本（四十分）三百円。OKさせるには三本の花代をつけ、食べずに飲食代千円がつく。高いようだが、芸妓相手としては安く遊べる方だ。

☆

●…**東北のアタミ**といわれる福島県の飯坂温泉、東北本線福島駅下車、福島電鉄にゆられて二十分。駅前の十綱橋をさかえに湯野温泉と飯坂温泉があり、川をはさんで左右どちらをみても旅館の灯が艶っぽい。「ねえ、今夜、旅館に呼んで下さらない」と寄ってくる。バーの女給が多く、そのままあさまでOK、番頭にニギらせると手ごろな女性をこっそり恋愛用に知らせてくれる。五千円ー七千円が相場らしい。

☆

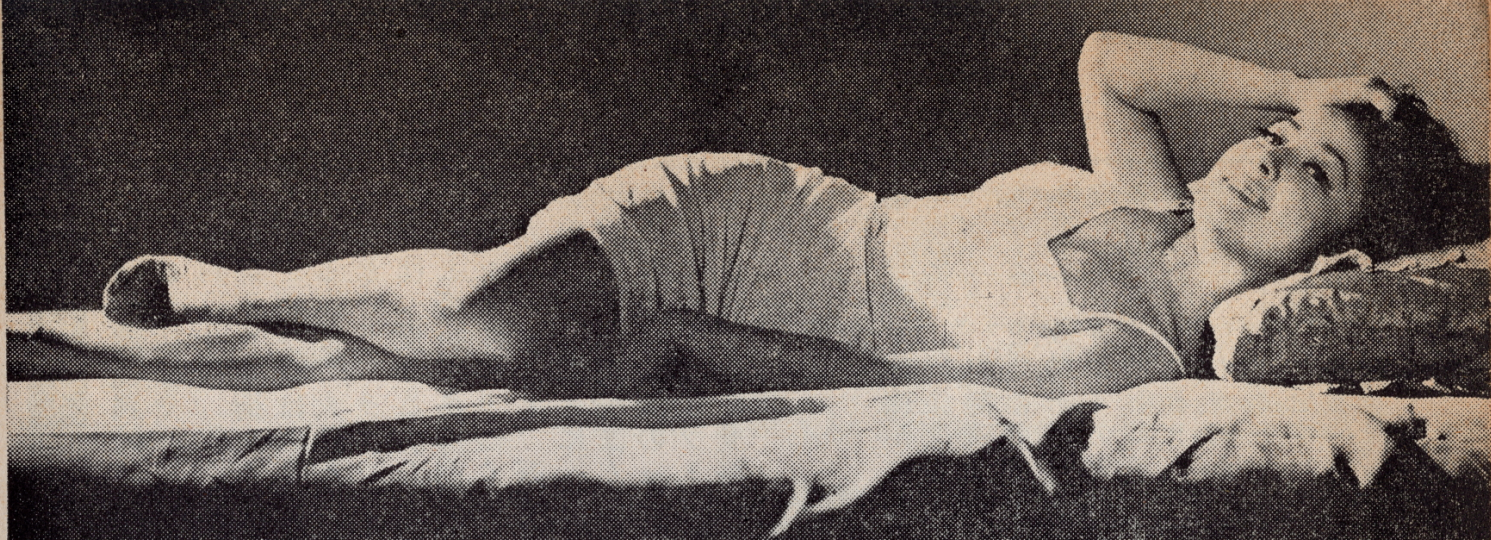
●…**青森は酸ケ湯温泉**、青森駅からバスで行くのだが、オドロかされるのは路地に偉大な陽物がニョキっと立ち並んでいることだ。もともとここは湯治客のための温泉街だったが、いまでは「ダンナ、コンブ巻はいかがですか」とリンゴのような頰っぺたを赤くした女性が色っぽく声をかけてくる。このコンブ巻は食べる方ではなく、パート・タイムの妻になるのが仕事、一日とか三日とか契約する。OKとなるとエプロン姿もかいがいしく下着まで洗ってくれ、一日二十四時間制で五千円、もちろん二十四時間拘束だから夜の方も意のまま。彼女たちの肌は雪国だけあって純白の餅肌で、夜は全裸になって寝る習慣もあるからベッドタイムは最高、雪をみながら二人でお湯にひたる正月なんてのもいいんじゃなかろうか。

☆

●…**東洋のナポリ**などとPRしている九州の別府は官能的な旅館でのお遊びも盛んだ。駅前を中心に〃別府銀座〃〃別府銀天街〃に現われる女性たちもこれまた有名だ。「ねえ、今晩、泊まっていっていいでしょ」とギュッとニギルぐらいは朝メシ前。よってくる女はバーの女給、ヌードスタジオ娘？浴客専門の女三助がほとんど。女にソデを引かれて行くと決まって特殊温泉と銘打った温泉マークに連れて行かれる。有名なのは「錦水園」〃春画の間〃があり、かならず誘った男の腰にまといつきながら、「あたし、もうたまらないわ」と「二股の間」などという男女のシンボルを表わした部屋に誘うが一度部屋に入ってしまえば、もう宿のものは一切顔を出さない。

Y談風土記　わいだんふどき

スクリーンに見る＝下着の美学

「二匹の牝犬」（東映）の小川真由美

☆裸以上にセクシー

本当の女のセクシーさは一体なにか―となると、そのものズバリのオールヌードよりもパンティやブラジャー、スリップの下着をつけた女の肢体にこそ最高のお色気があるといえる。その下になにがあるかもっと見たい、取り去りたい衝動、一枚の薄いナイロンの下着、美しく白い肌のみえるチラリズム…こうしたところに女のセクシーさが一段と発揮されるのだ。

最近はなにかというと全裸が強く要求され、それがエロチシズの終着駅の美だと思っている。オッパイ、ヒップ丸出しでのセクシー演技よりもスリップやパンティ、ブラジャーをつけたときに一段と女の美しさが強調されるのである。日本の映画で女優がちゃんとしたコルセットやブラジャー、パンティをつけたスタイルで映画にでてきたためしはない。下着の美学に演出者側も女優も知識が浅いことが原因している。

☆たのしいランジェリーの広告

最近、地下鉄や国電の車内広告をみるとコルセットをつけたセクシームード一ぱいのポスターにおめにかかる。これは全裸の女性のそれをみせられるよりもはるかにセクシーで魅惑的だ。

女性週刊誌のPRページを開いても同じことがいえる。「バストからウエスト、ヒップにかけての線をすっきりと美しくととのえます、レディの資格をととのえよう」などという広告文がのって

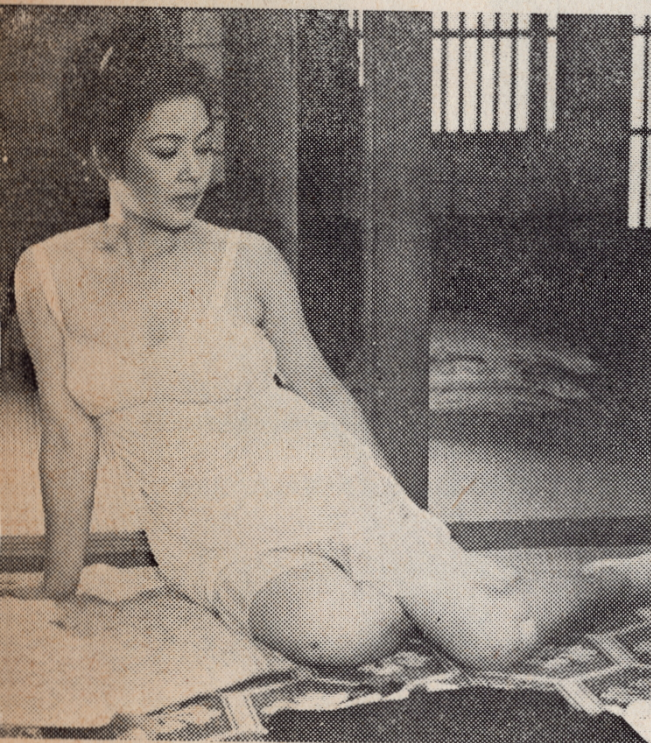
いる。つぎつぎと売り出される新型の下着に女性自身がとまどうだろうが、みている男性はまことに楽しいのである。

☆ピンク女優が裸になる理由

ところで、ピンク映画が終始女優を脱がせてハダカにしないとおさまらないのが常識のようになっているが、一度、パンティやブラジャー、コルセット、ストッキングを小道具にフルに使って下着の中のセクシーさをスクリーンに表現させたらどうだろう。

しかし、ピンク映画の場合は衣裳が自前なので、とても高価なコルセットを何枚も女優が買っておくほどの余裕がない……ということもあろう。ある女優などは同じパンティとブラジャーを数本の作品で使用していたのがあったし、ひどいのになると、それを他の女優が借りて出演したのがあった。

☆女優が最高にセクシーな時

下着の中のセクシーさを発散させた女優といえば「二匹の牝犬」でみせた小川真由美。アパートに帰りスリップ一枚になってベッドにひっくりかえり、ストッキングをぬぐシーン、「母」で情夫の武智鉄二とのベッドシーンで、黒いパンティをはいたお尻をとらえたカットが忘れられない。「悶え」での若尾文子のスリップ姿はそのふくよかな乳房の谷間がヌード以上のセクシーさをみせたし、「甘い汗」で酔った京マチ子がスリップ一枚で、おとろえぬグラマーぶりをみせた。

「悶え」（大映）の若尾文子

「甘い汗」（東宝）の京マチ子

「にっぽん昆虫記」でオンリーになった春川ますみがパーンとした肢体につけたパンティとブラジャーがハチ切れんばかりだったし、「赤い殺意」でも彼女がブラジャーをしないでメリヤスのシャツの底から乳首が浮き上がってみえるセクシーな場面、さらには山本富士子がフトンの上であでやかな長ジュバン一枚の純日本的なセクシームードは定評があった。

ロケだより

期待の新人若月ヒトミ＝「学生妻」

このところ好調の向井寛センセイが66年ラストの奉仕作品なそうである。この作品、向井監督にいわせると「この世の中で信用できるのはゼニ、金は人間を決してダマさないそして一面ではすべてを解決してくれる。金のために青春も肉体も賭けて非情に逞しく生きる女子学生の生き方をとらえながら社会のきびしさ、赤裸々な欲望の根元をさぐり出してみたい」というのだそうである。まず向井監督が好んで求めるテーマにふさわしい。「禁じられたテクニック」で一段と演出ぶりが上昇の彼が、この作品でどう女の欲望を描ききるか期待したい。

主役の若月ヒトミは、近代映協の「本能」のタイトルバックで雪の上で全裸になるシーンに出演、新藤兼人監督から「度胸と割り切りのよさはお見事」と激賞？された女優。まずその肢体もさることながら、オッパイの豊かさは最近のピンク映画界でヒットといえる乳房の持主、さて演技力の方がどこまで高まりとボリューム感をみせるか、新人だけに興味のあるところ。ストーリーは、女子学生の啓子(若月)は過去の悲惨な生活から金がすべてを解決してくれると信じて生きている女だ。金を得るためには学生(井村弘史)や助教授とも関係する。川井(木南清)は啓子にとっていいスポンサーだが、どん欲な啓子は川井の息子(武藤周作)とも関係し金をまきあげる。やがてその息子に刺されてしまう…。金しか信じない女が男に報復される—といった悲劇だ。つまり世の中ゼニこばかりじゃねえんだぜというわけだ。女子大生なのに〝学浅く〟っていうことだ。向井監督はベッド・シーンを撮ったら定評がある。

「なぜボクがみんな女の子をむいてしまうかというと、裸になる恥かしさ、それが画面にストレートに現われる。その一種のムード、それを狙いたい」というのが理由。ナイロンのスリップ、ブラ、パンティをつぎつぎととらせ、カッコのいいオッパイにライトをあてて撮るなんてやっぱり監督はいいショウバイである。

全篇に熱っぽい感触を漂わせて、むせかえるような体臭

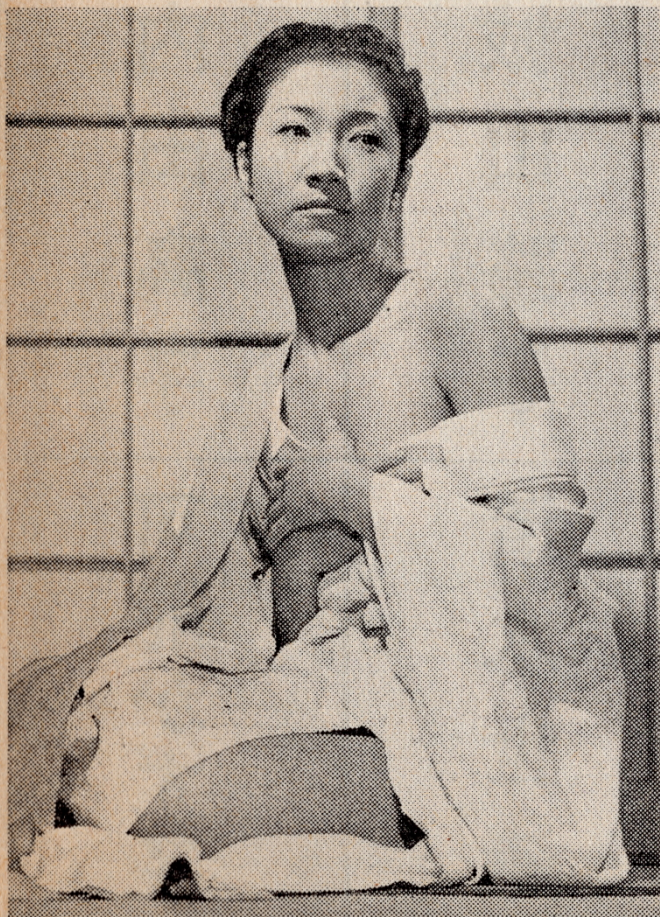
「学生妻」の若月ヒトミは度胸の良さが買われている

と迫力を――と欲ばっているが、ま、近ごろの向井演出は一応ゼニのつぎに信用していいんじゃなかろうか。（日本芸術協会作品、関東ムービー配給）

近親相姦を描く＝「虹の乳房」

「禁じられた性」を製作した青年群像がまたも矢つぎ早にクランク・インしたのが「虹の乳房」脚本は「禁じられたー」のシナリオを書き演出した大井由次。ペンネームを小諸次郎にしているが、なかなかのハッスルぶり。そんなに稼いで――と心配するむきもあるが、やはり大井プロデューサーの若さとバィタリティは相当のものだ。

ストーリーは呉服屋に嫁いだ由美子（高月絢子）は夫亡きあと父親（泉田洋志）と店を一際切り回している。夫の弟孝二（早川保清）は妻京子（清水世津）がありながら由美子を誘惑し関係するが、京子は財産ほしさに由美子を追い出そうと計画、結局由美子は二人の男性と関係しながら、やっぱり夫の父親がいい――と抱かれる――つまり近親相姦ともいえる映画で、シナリオの製作意図には「旅に病んで夢は枯野を駆けめぐる　芭蕉」とある。夢は枯野どころか、女は肉親をかけめぐる――といったあんばいだ。近親相姦はかの今村昌平監督が好んでとりあげるテーマだが、この作品にはどこまで人間性と日本人の風土的なものが描かれるかはわからない。高月絢子が、三人の男性とつぎつぎ濃厚なベッド・シーンを展開するのがみせ場といえばみせ場。呉服屋というので、ほとんどが和服オンリー。

高月は長ジュバンスタイルで、胸もあらわ、すそを乱して日本的な歌麿セクシーをおめにかけようという寸法。部屋の小道具類も、仏像、花瓶書画など、美術品はかなり名の通った高価なものを借りて撮影しているが、小道具一つにもこうした神経を使うことは結構なことだ。亡くなった松竹の小津安二郎監督は梅原竜三郎の時価数百万円もする油絵などを小道具に使ってコリにこった映画作りをやったが、この作品も小道具で俳優の不足をおぎなう計算だろうか。ドラマにそれほど目あたらしい構成はみられないが、安定した内容で、女の性の悲しさ……といったものを正攻法で描くのがねらいのようだ。（監督山本晋也、配給明光セレクト）

「虹の乳房」で歌麿セクシーを見せる高月絢子

謹賀新年

あけましておめでとうございます
ことしもどうぞよろしく

昭和四十二年　元旦

内田高子
可能かず子

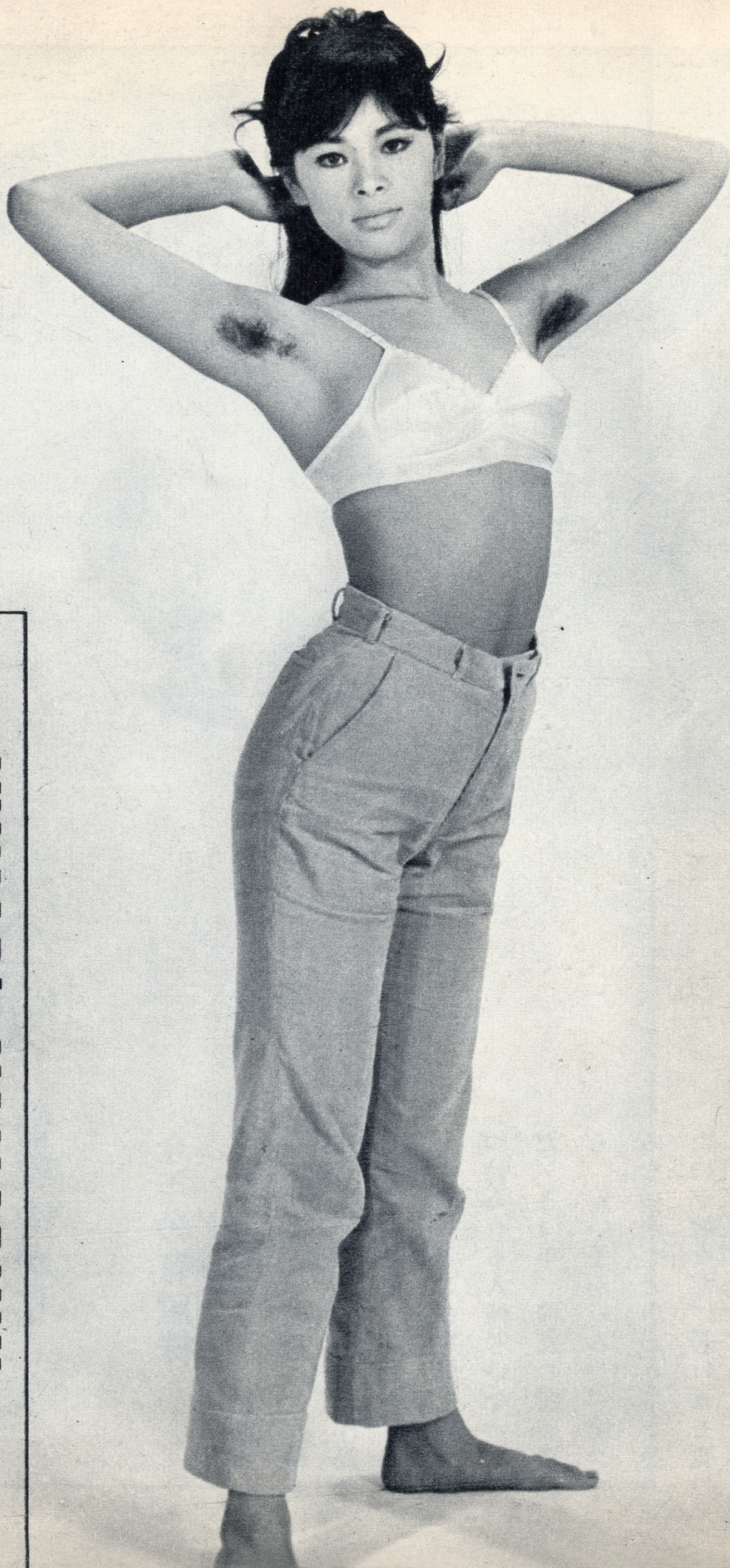
香取環
桂奈美
城山路子
清水世津

谷口朱里
新高恵子
松井康子
美矢かほる

里見孝二
津崎公平
野上正義
山吹ゆかり

女優
山吹ゆかり

* YUKARI YAMABUKI

女優

文／山辺信雄
カメラ／本誌特写

山吹ゆかり

今年の有望株

私たちは絶えず、新鮮なパーソナリティを持った女優を求めている。独立プロ作品こそ異色で企画の自由さ、作るもののよろこびを胸に抱きつづけられる人種もいないからだ。きょ年、僚友の渥美清から「いい子がいるが、使ってみないか」といわれて、会ったのが彼女だ。若いカモ鹿のような肢体。SKDで踊っていただけあって基礎が出来ているし、演技の感度にも素質がある。引き締った若さが最大の魅力で、ことしはトップに育てあげたい。

スター訪問／新高恵子

ラテンとベッドと漢方薬

ギターを爪弾く新高恵子さん

ベッドはシングルよといたずらっぽく
笑う新高恵子さん

せめて彼女くらいのセクシーさとセンスと教養があったら、ピンク映画も楽しくなる―と思わせるのが新高恵子だ。池袋のアパートでひとり暮し、部屋代が三万円ナリ。日本のチョンガーサラリーマンの月給にあたる。稼いでいるからそのくらいは……と思われるが「実は苦るしいのよ。もっと狭まいところに引越ししたい」と経済面を打ち明ける。トップスターが儲かっていないのはどうしても困るのだ。ギャラが安すぎる。価上げせよ、会社ばかり儲けるなーである。

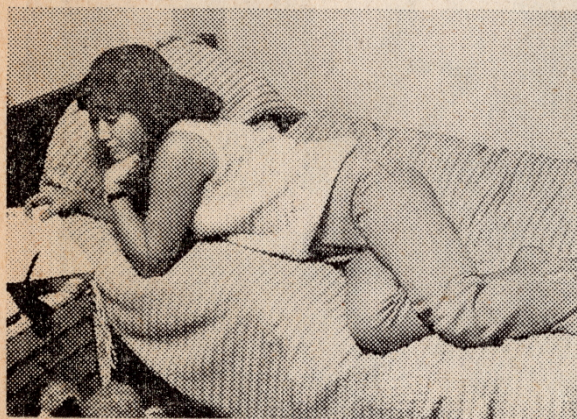
★大変な読書家

池袋駅の東口から徒歩で約七、八分。団地風のアパートの二階が彼女の部屋。これまで男性をほとんど入れたことがないという女の城。男子禁制のその中に招き入れられたわけだ。ドアをあけるとダイニングキッチンに冷蔵庫やら洗たく機とか台所用品がところ狭しとあって世帯の豊かさが感じられる。

四畳半にはステレオ、ピアノがあって、歌手でもある彼女の音楽好き、いや歌で生きる姿があった。そのトナリが寝室で、ベッド、大きな三面鏡、洋服ダンスに本箱、異色なのは彼女が立正佼成会の信者とあって、タンスの上にお札を飾り、お供物がキチンと並べられていた。

彼女の部屋からは音楽がたえない

彼女は大変な勉強家である

そして、二部屋のあちこちにかなりの書籍が並んでいる「ハイネ詩集」「ホイットマン詩集」「美術全集」「ヘミングウェイ全集」「演劇の論理と実際」「日本女性史」「日本の歴史」「源氏物語」などなど。かなりの読書家である。約百冊以上の蔵書があり、内容もかなりハイクラスだ。おもしろいことに「鉄腕アトム」のマンガ本も十冊並んでいた。日本の女優さんの書籍愛好ぶりをみてきた記者にとって、まず彼女は上位の読書家だろう。

「感心だなあ、それにしても読んでいるヒマあるの」

「忙しくても自分で時間を作るしかないわね。仕事で帰ってきて、ベッドの上で本を開いたまま寝ることがあるの」

★ベッドは大切にしたい

彼女の家宅調査みたいで失礼だが、四畳半のテーブルに座ると「ビールなら行けるでしょ」と彼女のサービスで仲よくビールをのみながらいろんな話題に花をさかせる。まず音楽だが、彼女は元東芝レコードに籍をおいたとき、買ったというでっかいステレオがある。

「ラテン系のものが好きなのよ」と、彼女は終始LPレコードをかけての大サービス。

絶えないミュージック、ビールはよしの最高のムード。このままベッドに行きましょ

！なんていわれたら気絶してしまうかもわかんねえな。ビールのツマミに秋田のハタハタ漬け、チーズが出て、「なんか口にあうもの作りましょうか」というから「いやいやもうこれで胸が一ぱい」と一応辞退申上げる。

六畳間の寝室はシングルのスプリングのよくきくベッド座ったらあったかい。ホンワかとするのも道理、電気毛布を愛用しているんだ。

「寝るのが楽しみみたいなもんでしょ。忙しいし疲れるしね。睡眠よくとっておかなくちゃあねえ」

さもありなん、ピンク女優はやっぱりベッドを大切にしなけゃあいけないのである。

★彼女のお色気の秘訣

彼女が「新高薬局」といわれるユエンはあらゆる漢方薬を用いていることだ。胃腸には、飲みすぎには、疲労回復にはとそれぞれ、瓶や袋につめたクスリがあってその薬に対する配慮のなされ方は相当なものだ。冷蔵庫の上にセト引きの丸い小さな水槽がある。彼女がそのフタをとってみせてくれたのがミネラルウォーター。中の水の底に小さな石が入っている。その石がミネラルになって貴重な水になるわけだ。フロ場でもそれを使っているといい、「袋に石を入れ、お湯をわかして入浴するんだけど、疲れがとれてあったまんのよ」という。

さればわれもまたひとふろ浴びて実験しようかと思ったが、それは訪問のやり過ぎと思われるので中止。

新高がかくもボリューム豊かでセクシーであるのはこれ総てミネラルと漢方薬と歌とハダカと信心（佼成会）によるものかも知れない。

料理する姿はやはり女らしい

★最高にいいムード

それにしても素顔のお恵さんは素晴しい。ジーパンにセーター、そのグラマーな彼女がベッドでギターをひきながら歌うウタは素適だった。「激痛」（監督小森白）で彼女が主題曲をうたっている。

〃流れ流れたその町に　愛する人のおもかげを　捨ててきたのさ　バカなバカなバカな私はいくじなし…〃近く大阪名古屋のクラブで十日間ほど歌うというくらいだから、見事なうたいっぷりだ。冬の午後は日の暮れるのが早い。一時間だけが、はや三時間も経過した。

訪問中、ひっきりなしに電話がかかってくる。売れっ子らしい忙しさだ。空気銃が好きで、標的をみせたり、話は尽きない。映画論、音楽、宗教問題、恋愛論、この新高恵子はよく勉強しているし、人間を信じ、善意を与えて求めている女性だった。帰りぎわ中華まんじゅうと寿司をお土産にくれたが、これも彼女の善意のあらわれなわけなんだ

ゴージャス娘 8

上田一平

1

約束どうり遊びに来たわよ

やあさあどうぞどうぞ

2

いまお酒買ってきますからその間お風呂にでも……

3

どうやら彼もマジメ人間になってくれたようね……

4

なんでえおめえの賭けるのはブツか……

上物一揃だ三〇〇〇にゃつけられるだろ

5

キャッ着物がなくなってる

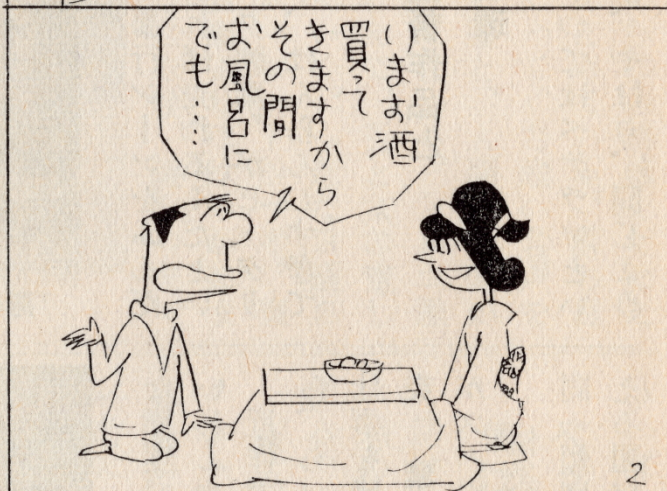
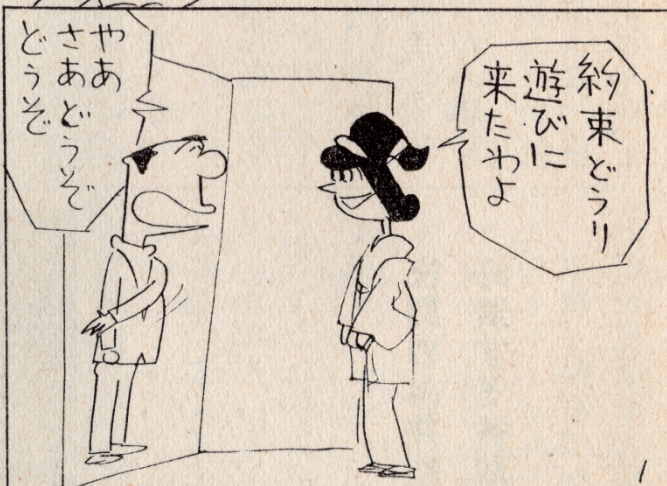
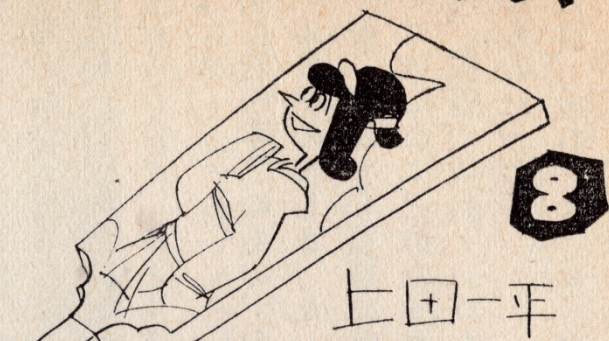
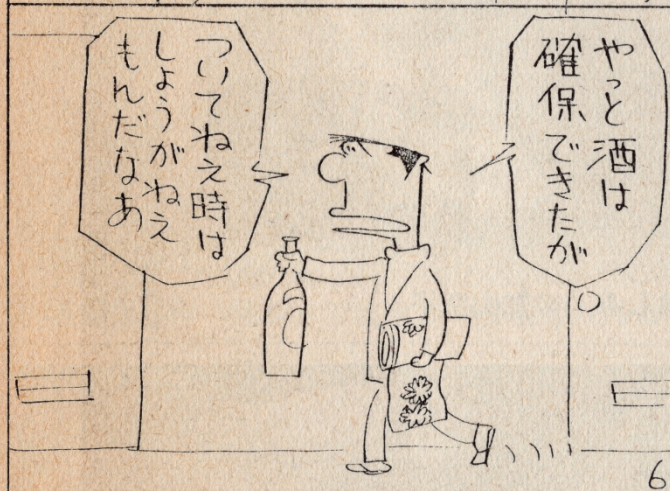
6

やっと酒は確保できたが

ついてねえ時はしょうがねえもんだなあ

7

やっと帯だけは取り返したのになあ

これで帰れると思ってんのバカ

ピンク映画みたまま

未知のおもしろさに 欠けるハダカ本位の作品

きょ年あたりからくらべると、最近のピンク映画は〝未知のおもしろさ〟がぐっと減って、定着してしまった感がある。

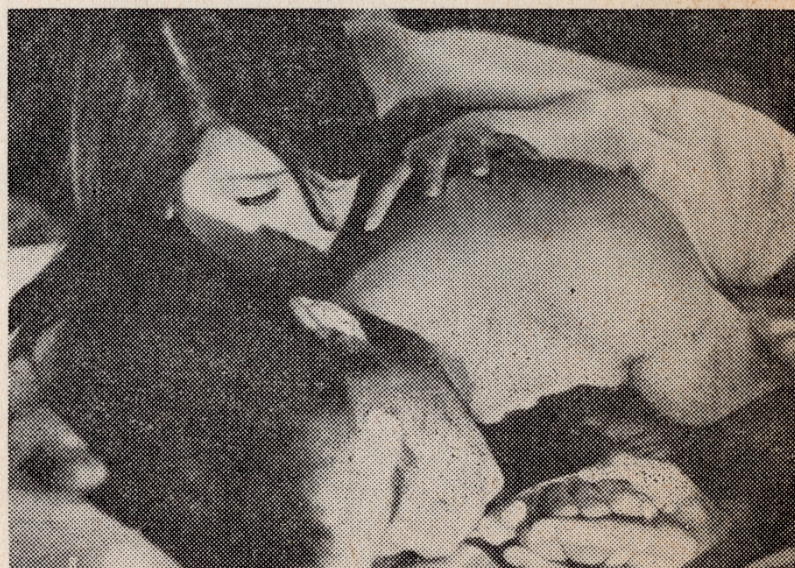
　というのは、ピンク映画のおもしろさというものは、自分の総てをぶっつけ映画を作っている喜びを求めている姿にあるのだが、近ごろはそうしたファイトというか、覇気のようなものを感じさせる作品が、ほとんどなくなってしまった。

　初期の若松孝二のもの、向井寛のもの、一本でやめてしまった「やめてくれ！」や「裸虫」の監督には、作品そのものは大したことはなくても、その中には、監督の情熱というものが感じられたものだった。

　最近は、それがまったくなくなってしまった。ただ、商売になればいい、ベッド・シーン、暴行シーンをふんだんに盛りこんであれば売れるんだというかにも〝ピンク映画〟がピッタリくるような作品が、はんらんしすぎている。

「悪の愉しみ」の加山恵子

快調の向井監督作品と 好演する香取環

　東映、松竹でかつてはベテランといわれた監督までが、やはり、同じような態度で撮っているのだから、何をかいわんやである。

　近作で特に目立った作品をあげるなら、ちょうど、油ののった職人がよい仕事を残すように向井寛監督の「情炎」「禁じられたテクニック」の二本がズバぬけている。

　「情炎」は、この監督の「色舞」と同一傾向のもので、もっとも得意といえる題材だが、京都に住むお琴の師匠

「禁じられたテクニック」は向井監督の水準作

近来の傑作「情炎」では主演の香取環も好演

をヒロインに、古都の静かなたたずまいの中に、許されぬ恋に身を焼き、遂には、わが身を殺す哀切の情話を情感豊かに描いた。演出はこの世界では実力随一といえる。薄倖の師匠を演じた香取環も、精一杯の応え方でほめられていい出来だった。

「禁じられたテクニック」は、向井作品の系列の中では、やや、従来のものとは傾向の異ったものだが、やはり随所に向井演出らしい情感をたたえていて、うまくまとめている。落ち目のボクサーをめぐって、力強い名声を求める金持ちの令嬢と、人間の欲望が虚色もなくさらけだされる。トルコ風呂に働く女がからんで、男と女の空しい関係が語られていく。へたな日活の国籍不明のアクション・ドラマや、東映の三流やくざ映画よりははるかにまとまっていてあきさせず、終わりまでひっぱっていく。

ベッド・シーンだけでは情けなくなる

情けなくなる作品のいい例として、「悪の愉しみ」と「肌に泣く女」をあげる。

「悪の愉しみ」は、京都で〝プロダクション鷹〟なるプロを主宰する木俣堯喬が企画、主演するもので、監督は松竹にいたベテラン倉橋良介だ。一口でいうと、和製ジキル博士とハイド氏で、ただ、女をつぎからつぎへと襲うシーンだけをつないだようなおそまつ極まる作品。

「肌に泣く女」は、売れっ子の新高恵子に、ただ裸にしてベッド・シーンばかりやらせ、スタッフが彼女のハダカを楽んで撮っているような何んにもないような作品。

こんな作品ばかりでは、ピンク映画の中でいくら努力しようとする人たちが、どんなに力もうとも当分は空回りに終ってしまうだろう。

後藤　敏（映画評論家）

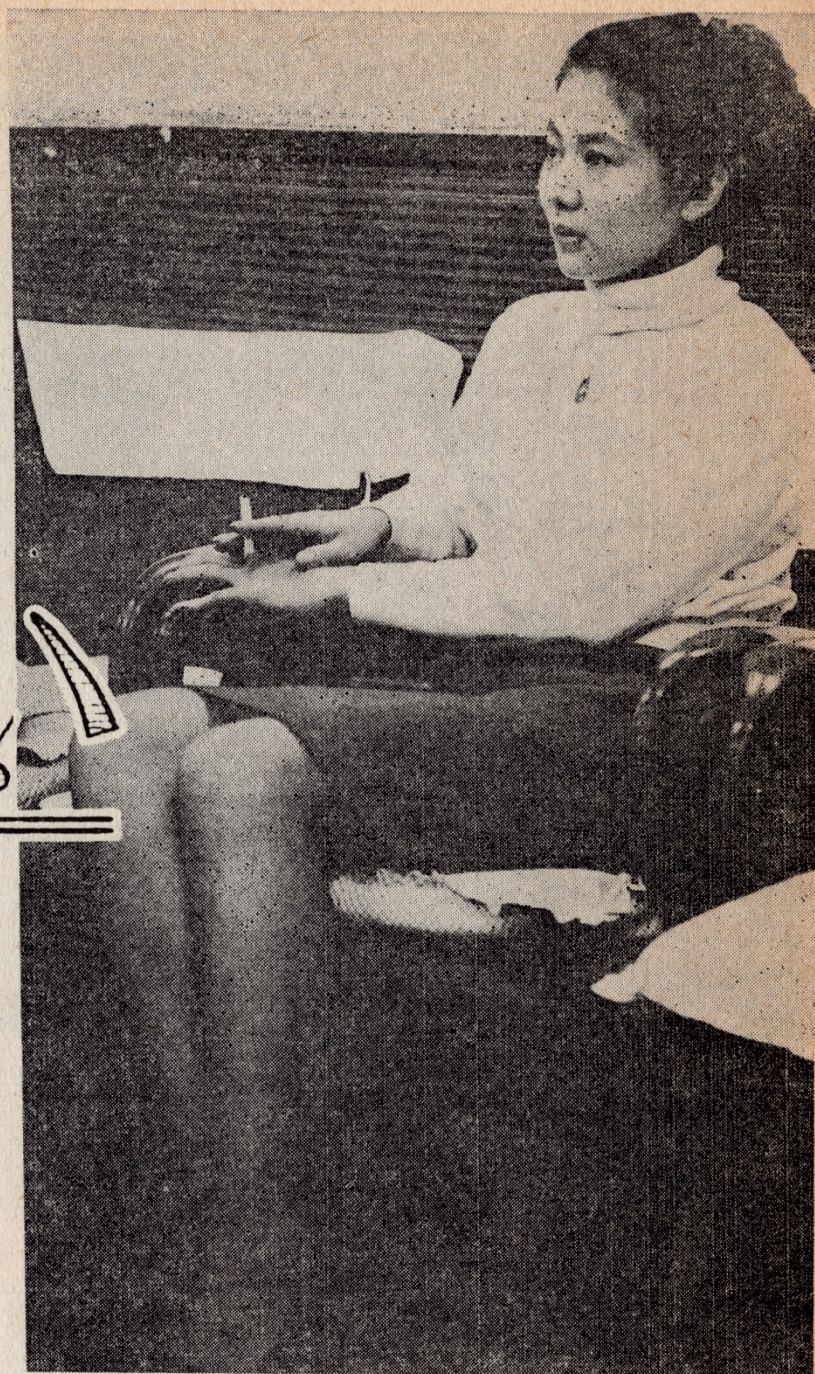
ていたい

ゲスト　谷口朱里

貯金のかわりに演技を磨きたい

川島　ことしは何本出演したわけなの。

谷口　そうね。二十数本ね。

川島　新高恵子、香取環と大いに稼いだ女優さんもいるしあなたベストスリーに入るわね。ざっと計算すると年収百五十万円位いは下らないんじゃない？

谷口　いくら稼いだかわかんないけど、いまなんにも残ってないわ。でもある程度洋服作ってアパートのお家賃払って…借金はしてないけどね。

川島　ある人がいってたけどお金はすぐなくなる。じゃどうしたらいいかというと人間は知識を貯えて老後に備えたほうがいいといってるわ。もっともだと思うの。女優さんは演技を磨くことだって大切な貯金の一つだってことよね

谷口　私はある一定の年齢まではやりたいことやって、いろんなものを身につけることが大切だと思うの。その人と会ってその人からなにか一つ吸収するとかね。

川島　大切なことよ。いまのうちだわ、若いうちよ。

谷口　私はなんでもいいから絶えず燃えていたいのよ。

川島　この間、女優さん達が集まって話し合ったということと聞いたけど、何人位い集まってどういうこと話し合ったの。

谷口　独立プロの俳優さんはいろいろの意味で弱い立場にいるので、みんなで集まって親睦会みたいな形で、話し合ってゆこうという趣旨だったのよ。ところが囲わりのある

私たちは女優意識が足りない―と谷口朱里さん

人は反対運動でも起こしているんじゃないかーと誤解されてしまって、結局六人位い集まっただけ。

川島　俳優さん達の横のつながりは大切よね。それに独立プロの俳優さんは〝俳優である〟という意識がないのではないかしら。台本も満足に読んでいない人が多い。そんな意味でも集まって勉強会的なものになればと期待していたんだけど。

谷口　独立プロの場合、いろんな意味でみんなが、冒険できるというところにいるでしょ。だけど俳優さん達の意識が低いし、台本だって自分のところも満足に読んでこない人がいるものね。

川島　そういう人達が多いもんだから、ただハダカになればいいだけと受けとられてしまうのよ。

谷口　私も人のことはあまりいえないけど、いえないから

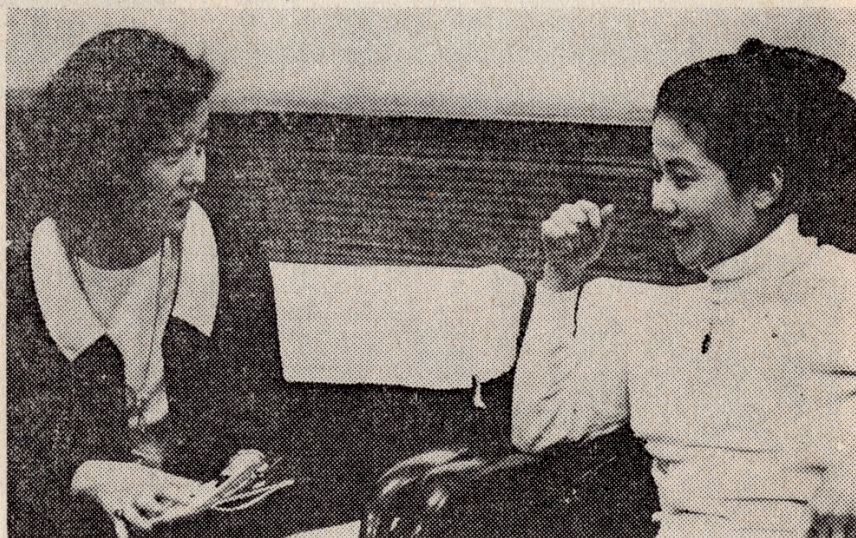
連載インタビュー第5回　■きく人　本誌・川島のぶ子

私はいつも燃え

集まって話し合いたかったのよ。

恋愛したら仕事も手につかなくなる

川島　あなたは「印相」とか「星占い」に凝っているけど下町っ子なのとお母さんの影響かしら。

谷口　それはあるわね。凝っているとか好きということは全部母の影響ね。生意気のようだけど、人間って信じられないし、逆に何かを絶えず信じていたいの。私が信じられるものというのはいつかは自

熱弁をふるう谷口朱里さん（右は本誌・川島のぶ子）

谷口朱里さんは、根が可愛いい女であり、律義な女である。さばさばとしていて若さにあふれている。

彼女ぐらいあと味のいいものを残してくれる女優さんも稀れではないだろうか。脱ぎっぷりだってさばさばしてるし、度胸もいい。なんとか前向きに前進したいというココロネはいまの独立プロの中では尊い。信じるものがないなんてのも寂しいじゃないの。やっぱりいい男性を信じて〝女であること〟を再認識しちゃいなさい。（川島）

恋をすることがこわい……と谷口朱里さん

分が死んでしまうだろうということだけ。信じなければ人間って弱いから生きていられないわね。何か信じられるものを追いかけているわけよ。その中の一部が印鑑とか星占いになってしまうの。

川島　男性も信じられない？　人間を信じられないなんて淋しいな。

谷口　男性だって女性だって信じたいわ。私だって信じられるのは死だけなんて淋しいわ。生きなければならないしどうしたら充実した生き方ができるかよね。だからたえず何かに燃えていなければ気が済まないのよ。

川島　おもしろい生き方よね。あなたが恋愛したらすごいでしょうね。

谷口　恋をした場合、夢中になって、消耗してしまうのよ。仕事ができなくなってしまい〃寝ては夢、起きてはうつつ幻しの—〃てことになりかねないわよ。

川島　あなたはすごく正直なのね。

谷口　ズルイかもしれないけど、自分がこの人に恋をしているなーと感じたとき、絶対に態度に出さないわね。こわいのよ。だから仕事のほうに切り替えてしまうし、仕事をしていたいの。

川島　あなたに教えてもらった〃星占い〃をみてもあなたは〃目的定まればいっさいなりふりかまわず矢のように突進する〃とあったけど当たっているわけね。だけどすごく性格が激しいようだけど、私はその反対ではないかと思うの。ものすごくもろい、それをカムフラージュするために反対の態度に出てしまうのね

将来はバーのマダムになりたい

川島　いつまでもあなただって若くはないし、ハダカになってばかりいられないでしょう。将来の方針なんかは？

谷口　やはりこの世界では若さが欲求されるし、いつまで続けられるかわからない。でもこのままではつまらないし…。私ね、生活の手段としてはバーをやりたいわ。映画の方向に進む場合だったら、演技をもっと勉強して、いまとは全然別の役をやってみたいわ

川島　あなたは結局、いつも燃えているためには、アルコール業のバーをやり、演技でハッスルして完全燃焼するってことでしょ。映画でいまやりたい役といえばなに？

谷口　無理かもわかんないけど、「男と女」のアヌーク・エーメみたいな役ね。あれは忘れられないなあ。日本の映画がもっとも手近かなところに求められる題材と役どころだと思うの。

今月のスクリーンエロチシズム

「女の破局」の可能かず子

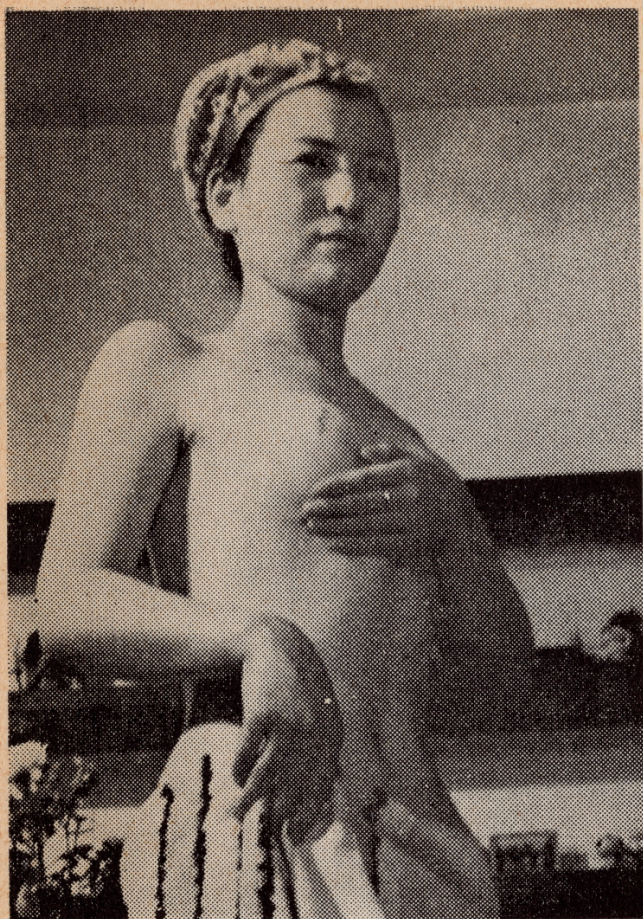
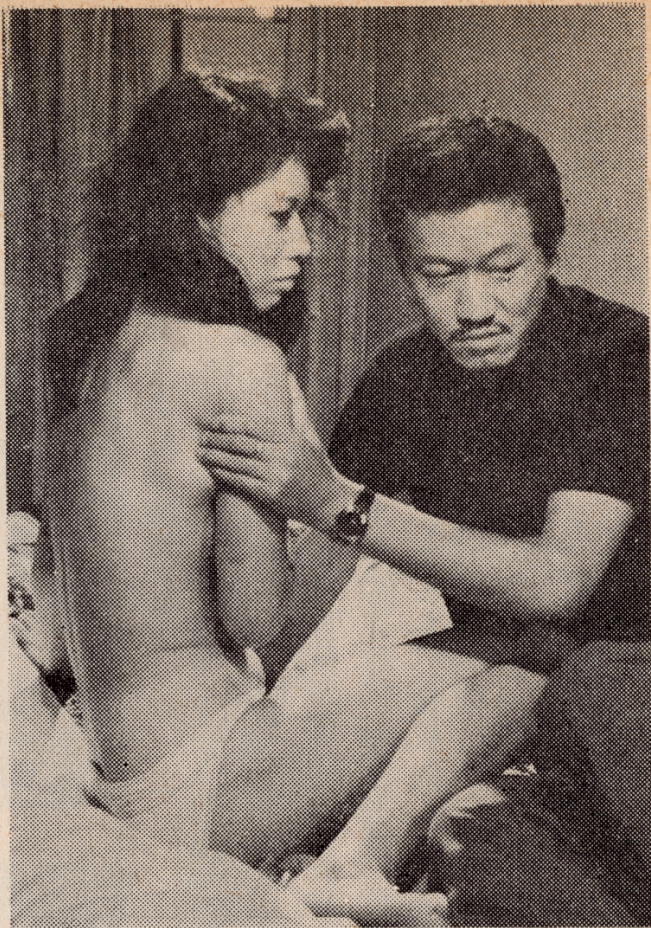
悪女志願

＝国映配給

●心中をデッチあげて殺した悪女計画

海辺に男女の心中死体が打ちあげられた。私立探偵（里見孝二）が調査してゆくうち、死んだ男と女はそれぞれ夫と妻（菊村愛）があり、その夫と妻は深い関係にあったことがわかる。そして女は自殺したことが、判明したが男は毒殺されていたことがわかる。なぜ毒殺されたのか！　男の妹（清水世津）は四百万円も借りており、その返済に困ってコーラーに毒を入れて殺してしまったのだ。疑装心中をよそおった悪女の巧妙な殺しのテクニックとは―。

製作＝湯浅プロダクション
監督＝湯浅浪男

「妊娠と性病」の谷口朱里

「痴情の診断書」の北川ユミ

「悪女志願」で体当たり演技を見せる清水世津

未婚女性に 妊娠と性病

＝大蔵映画配給

●二人の女性を通してセックスのモラルを探求

美加（谷口朱里）と邦子（東邦子）は田舎の貧しい生活からとび出す。美加は一流歌手を夢みて安キャバレーで唄っていたが、不良外人にだまされ、恐しい国際梅毒をうつされる。美加からプロデューサー（鶴岡八郎）とその恋人（左京未知子）へと感染してゆく。一方、邦子は演劇を志ざしていたが、隣りの室の大学生（四方護二）とハイキングにゆき体を許し妊娠してしまう。病院でお産のフィルムを見た邦子は中絶の恐しさを知る。美加と邦子は再出発をちかうのだった。製作＝大蔵映画・監督＝小川欽也

女の破局

＝関東映配給

●処女を踏みにじられて転落してゆく女の破局

明日の判決を前に放心したように天井をみつめている和子（可能かず子）。短かかった青春の回想が走馬燈のようにうつし出される。田舎の高校生だった彼女は帰校の途中、村のチンピラに処女をうばわれる。東京にいる恋人史郎（安田敏之）のハガキをたよりに上京し、やっとたずねたアパートには史郎が留守だった。疲れた彼女はその室でウトウトねこんでしまった。そこへ、訪ねてきた史郎の友人（野上正義）はそんな彼女のあどけない姿態に欲情し、彼女を犯してしまう。恋人にも逢えず途方に暮れる彼女の前には悪が待っていた。製作＝ヤマベプロ・監督＝飛田良

痴情の診断書
＝六邦映画配給

●コールボーイを飼育する情熱の女

竜子（絵麻アキ）はハンサムな青年を集め、金と余暇をもてあます有閑マダムやブルジョア娘のグループに送りこんでいた。ヨットハーバーで逢った大学生貢（大平宣容）をものにしたいと思うが、貢には靖子（北川ユミ）という恋人がいる。ねらった獲物は逃がさない竜子は貢に睡眠薬をのませ、その間に靖子を部下の者に強姦させる。貢も竜子によって飼育され、グループに送られる日がきた。その夜の客はなんと母親（松井康子）だった。貢は戦慄した。

製作＝青年芸術映画協会
監督＝新藤孝衛

裏窓の情事
＝大蔵映画配給

●裏窓が知っていた完全犯罪の秘密とは！

新進作家の三田村（鶴岡八郎）はふとしたことがもとで妻（左京未知子）と別れてしまう。一人になった三田村は暇があると望遠レンズを持ち出し、向かい側の家をのぞいてたのしんでいた。対面の家では、時折り訪れる老人と女（檜みどり）が昼間から情事にふけっていた。金や貴金属のかくし場所まで知った三田村は、自分が書いているストリーのように完全犯罪の計画をたてる。家政婦（清水世津）の娘の黒いストッキングをかぶり、アリバイ工作も完全。実行はすべてうまくいった。しかし、数百万円の金を盗み、女を犯した三田村の前には、思わぬ伏兵があった。人間の〝のぞき趣味〟を描いたエロチックミステリー。製作＝外苑プロダクション・監督＝青山繁

随喜の涙
＝東京興映配給

●追いつめられた夫婦の狂った抱擁

建設会社営業主任の幸雄（里見孝二）は幸福を夢みて結婚した。美しい新妻美恵子（加山恵子）と新婚の初夜、贈賄事件の渦中に巻きこまれてしまう。夫婦で逃亡中、幸雄は何者かに頭をなぐられ昏倒してしまった。猟師の娘加代（谷口朱里）に助けられた幸雄は妻の名前をよび続けていた。一方、美恵子は夫の行方をさがし続けたが、刑事らしい男二人に軟禁される。刑事らしい男、それは建設局長の諸井（泉田洋二）がやとった殺し屋だった。諸井は収賄により社会的地位を失うのを恐れ幸雄を消そうとしているのだった。製作＝加山プロダクション・監督＝小森白

禁じられたテクニック
＝日本シネマ配給

●不能のボクサーが情欲の中で苦悩する哀しき人間像

新進ボクサー江里口（武藤周作）は、ツキのない試合が続き、深夜の道をさまよっていたとき、強い男を求めてドライに渡りあるく女かおり（可能かず子）に逢い、愛し合うが「それでも男なの！女も満足に抱けなくなったくせに！」という言葉に、かおりの首をいつしか強くしめて殺してしまう。深夜のプラットホームで江里口は石のように

座っていると、トルコ嬢のなおみ（美矢かほる）が声をかけた。そしてお互いに報われない者同志がベッドを共に生きてゆこうとするが、かおりの恋人に江里口が刺されてしまう。不能のボクサーを描いた見応えのある佳作。
製作＝日本シネマ
監督＝向井寛

美しき悪女＝葵映画配給

●純情な男に惚れて情夫を殺して自殺する女

石塚洋子（香取環）はバーで動き、情夫を養っている。

洋子が男と別れないのは彼女の盛んなセックスの欲望を彼が満足させているからだ。バーに飲みにきた村山を洋子がたらしこみ、結婚の約束までさせるが、彼女は借金があるといい、村山はその金を出した。そして旅館で肉体を提供したが、村山はまだ童貞だった。相手が純真と知って洋子はわざと刺激し、自から男におおいかぶさってゆく。

洋子は村山をだましているうちに、彼の誠意にまけて、本当に愛するようになってしまう。しかし嫉妬に狂った情夫を刺すはめになり、ビルの屋上から飛び降り自殺してしまう。香取の豊満な肉体と情事シーンが迫力のある場面で十分楽しめる。製作＝葵映画
監督＝西原儀一

「禁じられたテクニック」の可能かず子と武藤周作

「裏窓の情事」の左京未知子

「随喜の涙」で大胆な演技を見せる加山恵子

「美しき悪女」香取環

某月某日 ——デスク日記

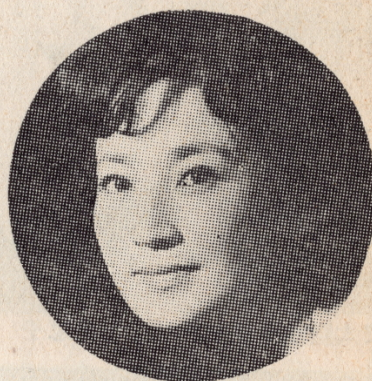
某月某日

きょうは編集で忙しく、やっと一息入れて机に向ったところへ可能かず子さんが遊びにくる。可能ちゃんとはしばらくぶり。仕事の話や、外国のカレンダー用に撮ったという彼女のフォートをみせてもらいそのセクシーな肢体にホレボレし、話に花が咲く。

彼女との付き合いは、私がこの仕事を始めたときからだけど、ゆっくり話し合ったことがない。ある試写会の帰り谷口朱里さんら四人で東中野にある城山路子さん経営のバー〃リズ〃に飲みにいった。飲むほどに酔うほどに色っぽくなり、来あわせていた渡辺護監督らにお色気をふりまきそのあと、新宿に飲み直しにゆこうということになった。私は仕事があるので失礼したが、その後日譚は、新宿にいった可能ちゃんが大いに泣いて、一緒に行った人たちを疲れさせたそう。気が強そうだが、泣き上口の一面をきいて案外可愛いい人なんだなと親しみをおぼえる。

可能かず子さん

某月某日

〃お早ようございます〃とさわやかな声の主、新高恵子さん来社。彼女が来ると室全体がさわやかな気分になる。〃明日から仕事なので食事誘いに来たの、六本木にでもゆかない？〃というけど近くの銀座で焼肉と相なった。ニンニクが大好物で大変な食欲、あれじゃグラマーなのもあたりまえなんだなあー。うらやましい。白い紙エプロンがよく似合う。彼女は結婚したらきっといい奥さんになるだろうなーと思わせるほどエプロン姿が素適なんだな。彼女も身体には人一倍神経を使っていて「新高薬局」の異名をとるほど薬についてはくわし

新高恵子さん

い。会うたびに新しい新高式の薬の調合や食事法を教えてくれる。

女優さんたち一人ひとりに会ってみると、とても女らしくて可愛いい人たちばかりだ。世の男性諸君、なにをボヤボヤしてんの……といいたくもなる。

某月某日

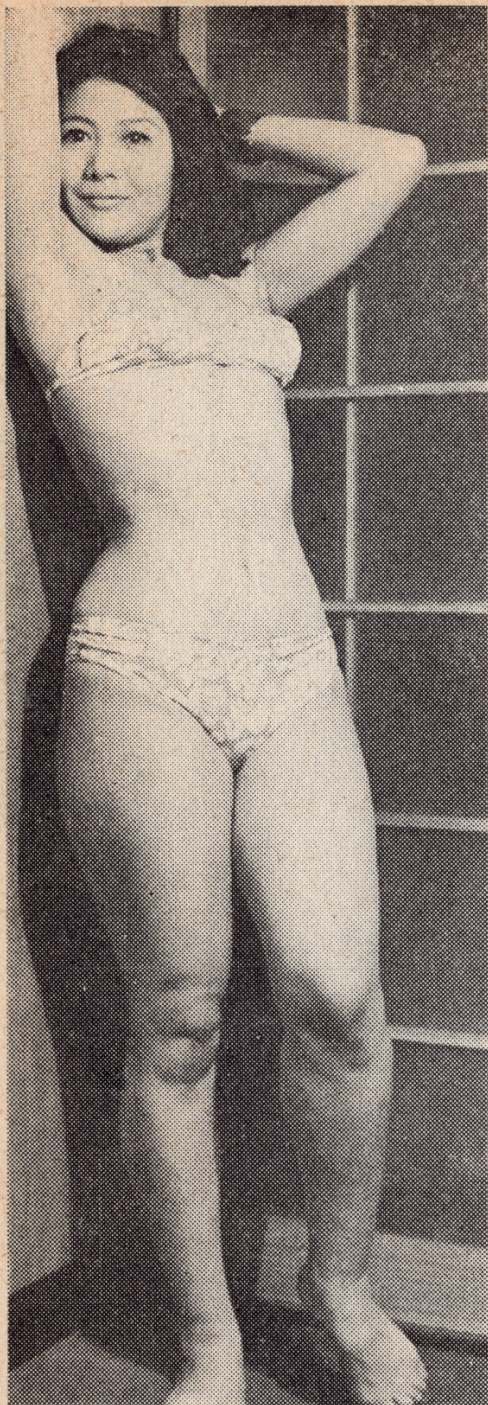
編集室にもストーブが燃えるさむさになった。隣りが試写室なので、各社のスタッフの人達が試写を誘いにくる。水曜日の午後一時から四時までは、まず机の前には座っていられない。おかげでいろいろな映画がみられ勉強になる。

新年号のインタービューに谷口朱里さんを呼んだ。

彼女とは同じ東京っ子のせいか気取らず話が出来て楽しい。また彼女ほど律義で義理堅い人も珍らしい。

〝撮影でしばらく逢えなくなるから逢いに来たの。こんどは大島よ。おみやげまっててね〟といい残して行った。彼女は〝星占い〟とか〝印相〟に非常にくわしい。私もだいぶ感化されて、印鑑を作り直したほど。ピンク系の女優は占いとか、漢方薬の知識が豊富だ。彼女達の生活がつねに不安定で自信がないからだろう。

身体だけが資本であってみれば、やはり彼女たちとて必然的に自己防衛の本能が人一倍になるのも当然だろう。

（川島のぶ子）

谷口朱里さん

O・Pチェーン映画ガイド

11/28——12/5	12/6——12	13——19	20——26
(関東映配) 女の破局 (大蔵映画) O(ゼロ)線旅館	(大蔵映画) 快楽のうず潮 (葵映画) 美しき悪女	(六邦映画) 痴情の診断書(カルテ) (日本シネマ) 裏切りの季節	(大蔵映画) 総天然色 世界求愛 悩艶週間 (五本立)

27——1/2	3——12	13——20	21——28
(明光セレクト) 虹の乳房 (関東ムービー) 学生妻	(大蔵映画) 性科相談室より愛情開眼 (大蔵映画) 妊娠と性病	(大蔵映画) 桃割れの微笑 (日本シネマ) いたづら	(六邦映画) 乱れ髪 (葵映画) 狙う

謹賀新年

本年もよろしくお願い申し上げます

1967　元旦

成人映画編集部一同

■…新春放談を四人の監督に集まっていただき、渋谷の獅子林で開いた。何しろアルコール好きの若手ときているので、酔うほどに喋るほどにそのにぎやかなこと。後半は〃あんた〃が〃おまえさん〃になり〃てめえ〃になってまさに噛みつき座談会がそのまま再現大いに意気の上がったところで、新年も大いにハッスルしょうと誓う。（X）

■…映画界は今年もまた、かなりきびしい年であることを覚悟せねばならないようだ。ピンク映画しかりである。女優をただやたらに裸にして、ラブシーンをやらせたところで、たいした新味はない。新春放談の四人の監督はこれからも、ますます旗手としての役割りを果さねばならぬ人たちだ。大いに気炎を上げ大いにリッパな作品を作ってくれることを期待したい。（I）

■…新年を気持ちもあらたに迎え、仕事を意欲的にと張切っています。今号は〃女優〃にフレッシュなお色気と若さの魅力の持ち主、山吹ゆかりさんにお願いしました。〃某月某日〃は編集部に訪れた俳優、監督の知られざる裏面を紹介してゆきます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。（K）

■昭和42年1月1日発行　通巻第14号　毎月1回1日発行　編集兼発行人／川島のぶ子　発行所／東京都中央区銀座西8−10　高速道路ビル地下101号室　現代工房　電話／東京（571）6400
■定価百円

魅惑

新高恵子

* SEXY PARADE

スクリーンに踊る５人のセクシーポーズ

誘惑
谷口朱理
新鮮
清水世津
危険
桂奈美

妖艶

美矢かほる

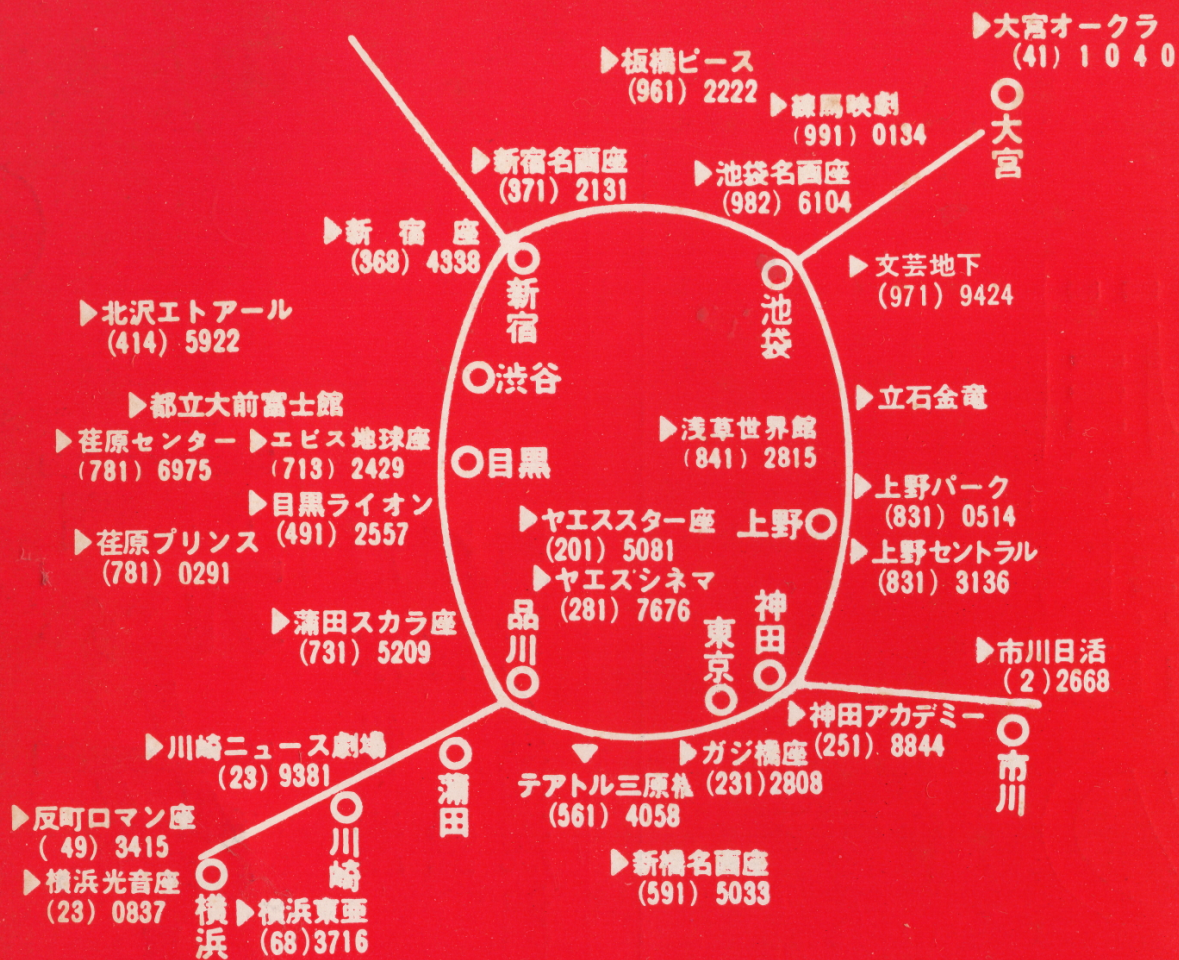
* SEXY PARADE

スクリーンに踊る5人のセクシーポーズ

噂の恋人ガリア登場

―― <恋するガリア> ミレーユ・ダルク(仏) ――

いまフランスで売りだし中の女優といえば、彼女ミレーユ・ダルク。当年28才とは思えぬ若々しさ。セーターにスラックスという姿にもお色気があるし、こうしてバッサリ脱いでくれるところがなんともフランス的。「ガリアンヌ」なる流行語まで生まれて世界中に旋風を巻き起こしている。ヘラルド配給

関東地区成人映画上映館一覧表

大阪地区成人映画上映館

難 波

▶千日前オリオン座
(641) 5477

▶千日前新オリオン座
(641) 5477

西淀川区

▶野里リボン座
(471) 1082

阿倍野筋

▶阿倍野名画座
(641) 5885

福島区

▶吉本キネマ
(451) 6793

布施市

▶布施映劇
(721)4990

城東区

▶放出シネマ
(961) 0664

守口市

▶守口セントラル
(991) 0049

東淀川区

▶十三若草劇場
(301) 5929

天王寺区

▶鶴橋松竹
(761)9752

都島区

▶都島会館
(951)4651

北 区

▶天六映画劇場
(351) 9138

大阪駅

名古屋地区成人映画上映館

○浄心ハイツ
(531) 4118

○上飯田劇場
(991) 5714

○守山瓢映
0560-(79)2082

○栄生グランド劇場
(551) 6379

○タカラ劇場
(941) 6076

○堀川映画劇場
(231) 0193

◎今池フジ
(731)4763

○太閤劇場
(551)2353

◎テアトル希望
(541) 3044

○曙文化劇場
(731) 3806

◎日活シネマ
(241) 2345

○鶴舞劇場
(881)8494

◎名 画 座
(231) 3211

○雁道劇場
(881)8069

○日比野東映
(671) 0407

○八熊文化劇場
(321) 8194

◎南映画劇場
(811) 4906

○新郊劇場
(811)2730

○名港文化劇場
(661) 1269

○名南劇場
(811)6586

国映が放つ、正月映画の決定版!!

国映株式会社

製作／矢元照雄

国映

国映が新年におくる史上空前の大悪女登場!!

悪女志願

清水世津
菊村愛
監督／湯浅浪男

月刊「成人映画」通巻第十四号 昭和42年1月1日発行 編集兼発行人 川島のぶ子 発行所／東京都中央区銀座西八ー一〇 高速道路ビル地下一〇一号室 電話（五七一）六四〇〇 現代工房 定価百円